

IEC JEITA

JEITAにおけるIEC TC 100の 次世代人材育成プログラム

- IEC TC100の紹介
- 次世代人材育成プログラム

平成26年6月30日
一般社団法人 電子情報技術産業協会
AV&IT標準化委員会)富士通(株)松村

1

IEC JEITA

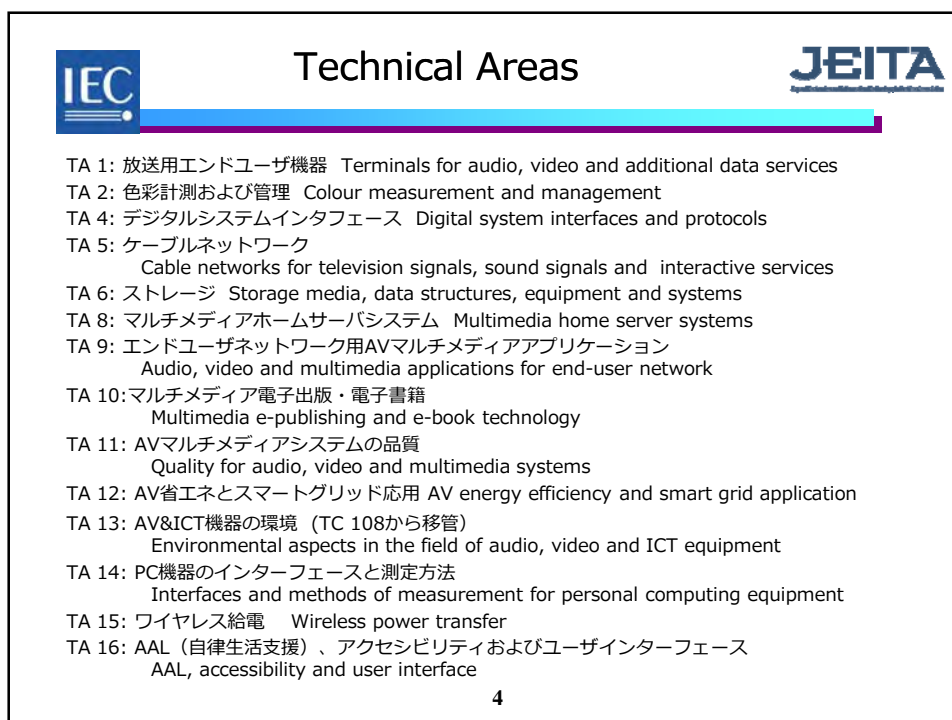
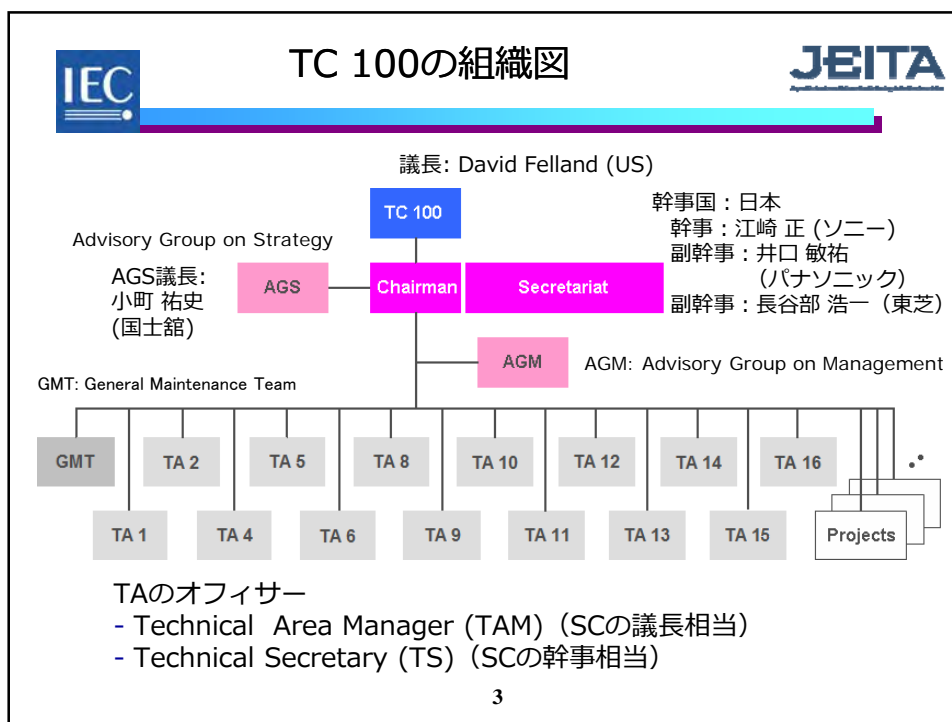
TC100の紹介

AV & Multimedia Systems and Equipment

Professio

Consum

2 2

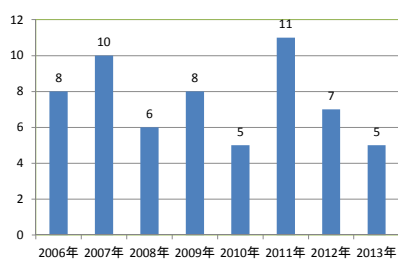




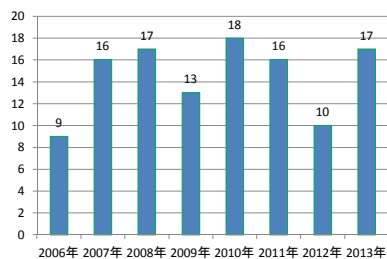
TC 100のTAM (議長)、TS (幹事)



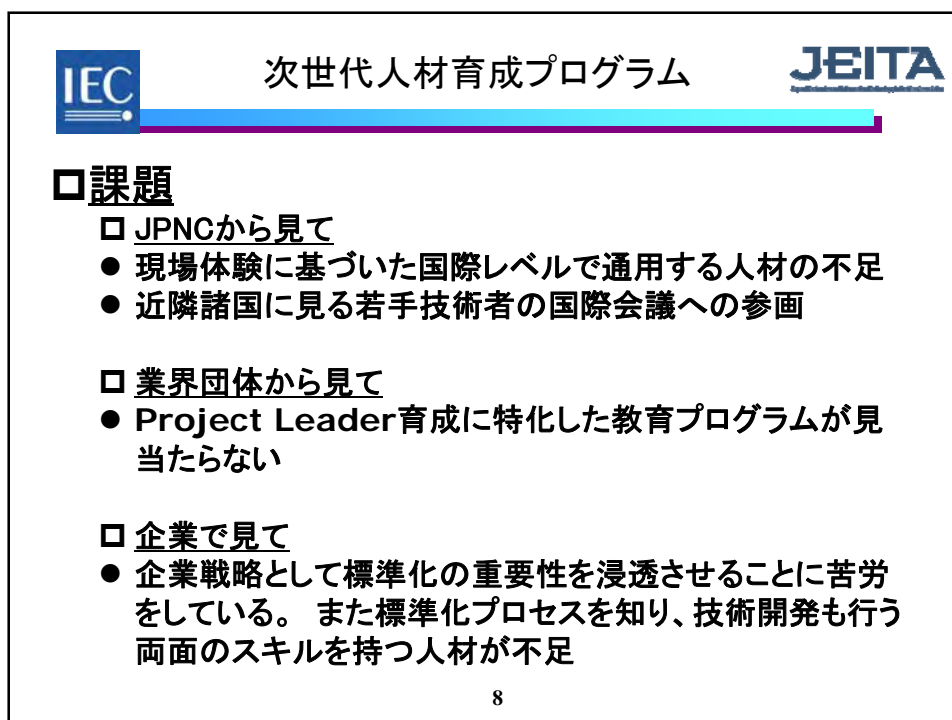
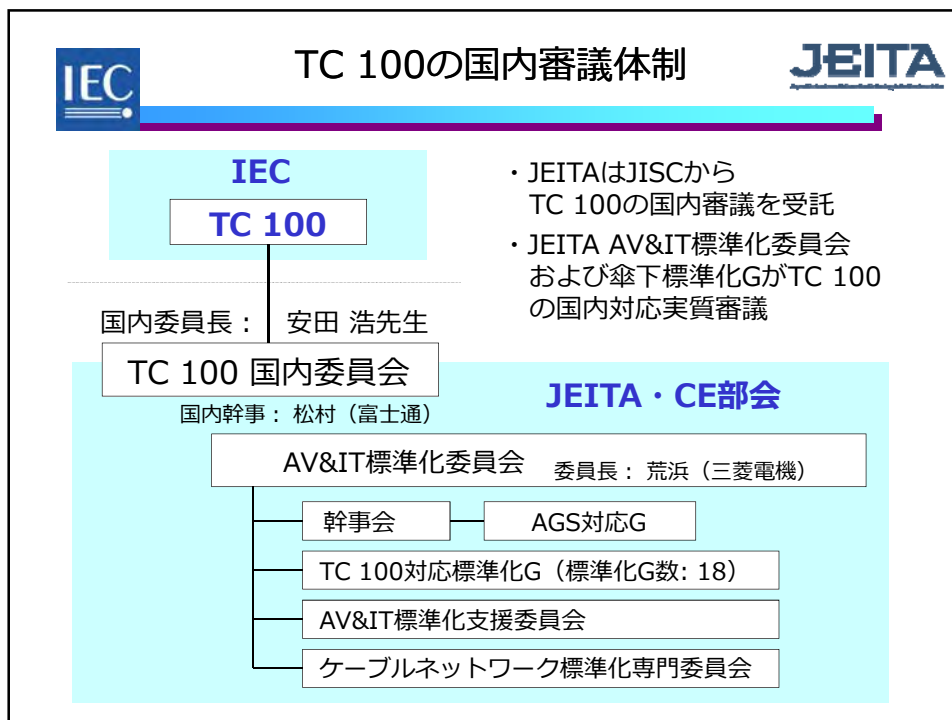
TA	Technical Area Manager	Technical Secretary
TA 1	Mr. Pekka Talmola (FI)	長谷部 浩一 (JP)
TA 2	杉浦 博明 (JP)	Mr. Jack Holm (US)
TA 4	Dr. Jae-Young Lee (KR)	Mr. Kwan-Soon Choi (KR)
TA 5	Dr. Lauuli Halme (FI)	Mr. Jukka Alve, Mr. Eero Sorri* (FI)
TA 6	大高 秀樹 (JP)	塚田 幸司 (JP)
TA 8	松村 秀一 (JP)	榊原 宏紀 (JP)
TA 9	Ms. Grace Wei (US)	中 勝義 (JP)
TA 10	植村 八潮 (JP)	成井 良久 (JP)
TA 11	由雄 淳一 (JP)	Mr. Mark Yonge (UK)
TA 12	Mr. Jon Fairhurst (US)	井口 敏祐、石井 義一* (JP)
TA 13	Ms. Donna Sadowy (US)	成岡 剛 (JP)
TA 14	松村 秀一 (JP)	榊原 宏紀 (JP)
TA 15	Dr. Kamil Grajski (US)	Dr. S-O Lim, Dr. O-W Nam* (KR)
TA 16	Dr. Kate Grant (UK)	Ms. Ulrike Haltrich (DE)
GMT	Mr. John Woodgate (UK)	江崎 正 (JP)



NP: new work item proposalの提案数
5年間の合計: 60



標準規格の出版数 (IS/TS/TR)
5年間の合計: 116





JEITA

□ プログラムを受ける人

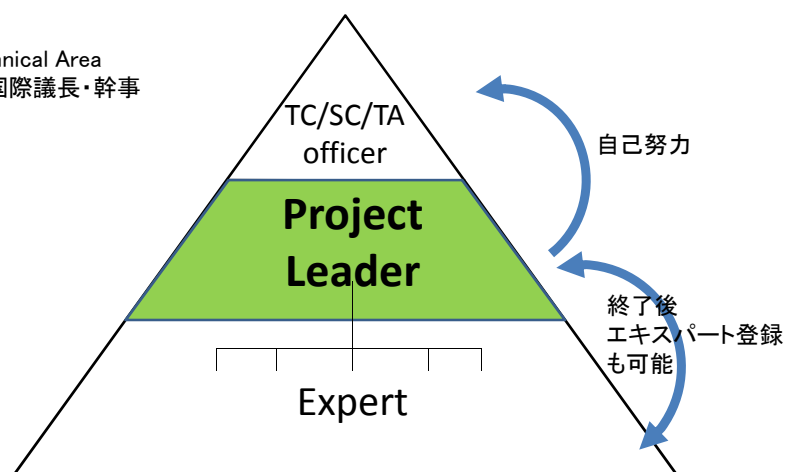
研究、開発部門のエンジニアなど標準化活動に従事する人

9



PL: Project Leaderの育成

TA: Technical Area
Officer: 国際議長・幹事



10



□目指すゴール案

- プロセスを理解し日本発の国際規格策定が出来る
PLの育成
- PL候補としてAGSでStudy Session設立提案、又は、NP提案がベストケース（教育期間中にテーマがあればProject Leaderになることも可能）

補足:

NP: New Work Items Proposal

AGS: Advisory Group on Strategy (戦略諮問会議)

Study Session(新規テーマで標準化検討を深掘するためのセッション)



Project Leaderの役割

- プロジェクト推進、とりまとめ
- プロジェクト工程管理とドキュメント品質管理
- プロジェクト会議開催と進行、まとめ
- AGMなど上位の委員会へ状況、結果報告
- 問題発生時の解決と必要なエスカレーション
- NP提案からFIDSの回付までの作業
- リエゾン関連作業
- そのほか、プロジェクト上で起きる問題対応と解決

AGM: Advisor Group on Management (運営諮問会議)

FDIS: : Final Draft International Standard



次世代人材育成プログラム(特徴)



- PLを育てることに特化した人材育成プログラム
- JEITAという業界団体である特徴を盛り込んだ内容
 - 現役の国際議長、国際幹事、PL、エキスパートが講師
 - 実際に使用された規格ドキュメント、IEC-formを使用
 - 委員会に出て策定現場を体験、案件にfeedbackも可能
 - 期間中にNP提案も可能
- パーチャルなPLとなり、NP提案を出し、CD,CDVのコメント作成、及び observation作成、FDIS提出まで演習を通じて現場体験ができる

13



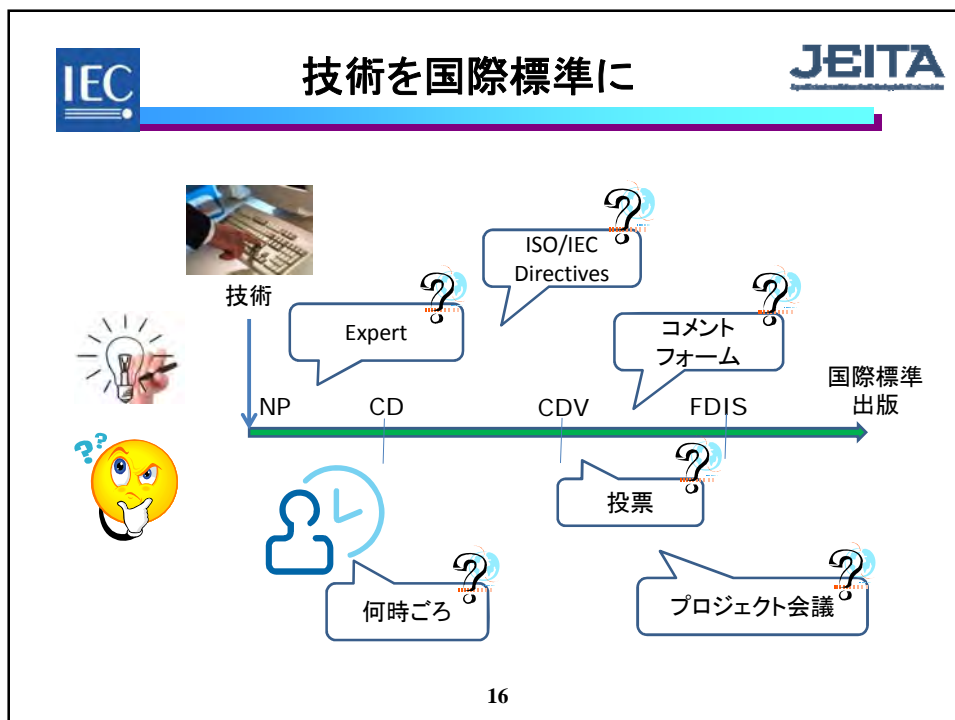
テーマ	時間	備考
国際標準化研修 初級	約6H	外部講習
国際標準化研修 中級	約6H	外部講習
TC100紹介	約2.5H	標準の種類や分類を追加
実例を用いてNPからFDISまでIEC-formでプロセス学習	約8H 授業/演習/振り返り	
課題から Directives の逆引き Directivesの理解と使い方	約8H 授業/演習/振り返り	
規格例を用いて、どこを、どのように標準化、効果事例を学習	約4H 授業/演習/振り返り	
IEC 中央事務局ツールの使用方法など学習	約3H	

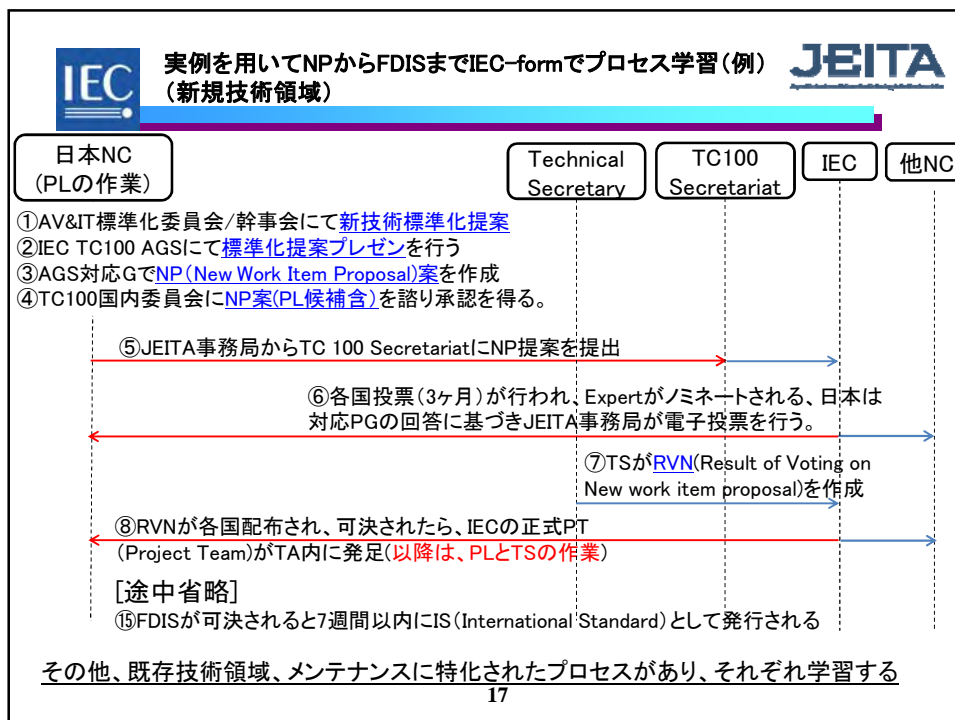
14




テーマ	時間/日	備考
実習: 標準規格の策定/演習	約4H	合宿
実習: 成果発表会	約4H	
現場体験: AV&IT標準化委員会/対応G/PG会議、2014IEC東京大会、TC100国際会議	標準化委員会 1回 対応G 1から3回 東京大会 国際会議	
議長、幹事、PL、エキスパートとの懇談 <ul style="list-style-type: none"> ● 代表的な事例の紹介 ● 経験談など 	約3H	

15





IEC 課題からDirectives の逆引きDirectivesの理解と使い方(例) **JEITA**

Questions	Answer	ISO/IEC Directives
NP成立条件を教えてください。棄権はどのように扱われるのでしょうか？	投票したPメンバーの過半数が賛成、かつ、Pメンバーの数が16以下のTC/SCの場合4カ国以上17以上のTC/SCの場合5カ国以上がエキスパートを指名すること。棄権はカウントされません。	Directives Part 1, 2.3.5
NP提案をしましたが、エキスパート不足でNPが否決されました。どのように対応することが可能でしょうか？	NP投票締切時点でエキスパートが満たない場合、1カ月のうちにエキスパートを確保できればNPは成立します。	IEC Supplement 2.3.5
エキスパート登録の仕方、途中での登録、どのような役割で、リソースはどの程度必要でしょうか？	NP提案の場合、回答時に登録します。NPが成立した後は、各国NCが必要に応じてIECのExpert Management Systemで登録可能。IECの場合、IEC-APCが対応していますので、各審議団体から登録を依頼してください。エキスパートはNCからの登録になりますが、NCの代表としてではなく一専門家として活動することが求められています。	Directives Part 1, 1.12.1



課題からDirectives の逆引きDirectivesの理解と使い方(例)



Questions	Answer	ISO/IEC Directives
Projectは最長で何年間掛けることが可能ですか？	5年以上時間がかかっており、最終承認段階に至っていないプロジェクトはキャンセルされます。	Directives Part 1, 2.1.6
Co-PL/Editorのアサインは誰がどのようなルールで決めるのでしょうか？	プロジェクトの中でCo-PLやEditorが必要であるとコンセンサスが形成されれば、後は同じくプロジェクトの中で話し合うことになり、最終的にはPLが決めることが相応しい。	特にこの項目で記述なし




実習：標準規格の策定/演習(例)




- 演習は、理解度を確認しながらPL役割の仕上げのもの、模擬現場体験をする。
- 代表的なもの、紆余曲折があったISから作成した教材から選択可能。
- 現物のNPを参照してIEC formを完成させNP提案、投票、結果の確認方法を学習、TSへRVNの発行依頼、例えば、途中ISからTSに落とす場面の学習など。また、エキスパートから届いたコメント対応し、observationを作成する。
- 講師が前提や必要な情報は与え、これまでの学習を元にPLが手順、課題解決内容を判断する。講師はTSになったり、中央事務局となったりする。

例：Compilation of comments on committee

National Committee	Clause/Subclause	Paragraph Figure/Table	Type of comment (General/Technical/Editorial)	COMMENTS	Proposed change	Date	Document
							100/xxx/NP
						OBSERVATIONS OF THE SECRETARIAT on each comment submitted	
Japan	2		Technical	"XML" should be added.	2 Normative reference should include: Extensible Markup Language (XML) 1.0 (Third Edition), W3C Rec., 2004-02-04 NOTE 1 Extensible Markup Language (XML) is a subset of ISO 8879:1986 (SGML) amended by its Technical Corrigendum 2.		Accepted



スケジュール(案)





次世代育成プログラムの委員募集は6月から開始


項目	時期	備考
外部講習	7月頃から	
座学習	8月頃から	
実習	9月、10月頃から	
現場体験	9月国内委員会、傘下標準化対応G 本年11月 2014 IEC 東京大会	
体験談	10月頃から	

節目で習得した学習内容を話し合う振り返り、反省会などを開催。

21

ご清聴、ありがとうございました。



22